

熱川温泉病院

横山 あみ・橋本 ひな・中嶋 晴香・中島 由佳(看護師)

- 功 績** 地域防災訓練に参加し、住民向けに身近なものを使った応急手当方法を指導したことで住民の防災意識向上に貢献した功績。
- 推 薦 者** 石川 桂子(看護部長)
- 推 薦 理 由** 被推薦者の4名は2020年に新卒で当院に入職し、これまで病棟での業務に真摯に取り組みながら、健育会グループの研修等多くの活動を経験してきたおかげで、現在では看護部を支える貴重な人材に成長しました。今回、看護協会の研修の一環で参加した地域防災訓練でしたが、地域住民の防災意識向上に資する活動に対して理事長賞に相応しいと思いますので是非推薦させていただきます。

内 容

12月4日(日)、隣町で地域防災訓練が行われ、当院から入職3年目の看護師4名(横山・橋本・中嶋・中島)が参加し、地域住民向けに災害発生時の救護で役立つ応急手当の方法を指導しました。訓練参加の目的は、以前に看護協会主催の災害初期看護研修を受講したことで得た知識と技術を活用して、看護職に求められる能力の必要性を理解することにあります。

当日は会場に住民36名が集まり、事前に用意した資料と災害時に利用できる身近な生活用品(雑誌・新聞紙・タオル・ラップ・レジ袋など)を配布し、参加者の前で「切創」「擦過傷」「骨折」「捻挫」各ケースで生活用品を使った応急処置の方法を説明しながら、実際に処置を行って見せました。続いて参加者をグループに分け看護師1名が入り、住民の方に実践してもらいました。新聞紙を骨折の固定に使ったり、レジ袋を三角巾に代用したりといった内容に参加者は意欲的に臨み、「家に帰ったら家族に教えてみよう」「ラップは災害時に持ち出すバッグにいれておこう」などの感想を頂きました。彼女たちは業務の合間に協力してアイデアを出し合い工夫し、十分準備してきたので、頂いた1時間の枠で上手く指導できたことを喜んでいました。

今回、指導する役割を担った彼女たちは、地域住民の防災意識の向上に貢献してくれました。また、訓練を主催した自治体や看護協会に協力したことで連携強化にも繋がっています。研修の様子は町の広報誌に掲載され、当日の参加者以外にも広く活動をアピールできました。コロナ禍で外に向けての活動が制限される中でも、積極的に地元との結びつきを強めていける良い契機になったと思います。